

26. ヌカボタデ (タデ科イヌタデ属)

Persicaria taquetii (Lev.) Koidz.

2014年10月

水湿地に生育する軟弱な1年草です。茎の下部は地を這い節から根をだし、多くの枝を分け、上部は直立し、高さ20~40cmでまばらに毛があります。葉は薄くほとんど無柄で長披針形、鋭尖頭、基部はくさび形で長さ2~6cm、両面に毛があるかまたはありません。托葉鞘は筒状で、長さ2~6mm、表面には毛があり縁毛は筒部と同長または短い。花は9~11月に総状花序にまばらにつけ、花序は細長く線形で長さ1~3cm、がくは5深裂し、白~紅色で長さ約1.5mmです。瘦果は卵円形で3稜形あるいはレンズ形、光沢がある黒褐色で長さ1.5~1.7mmです。分布は本州、四国、九州、朝鮮で、兵庫県での記録は夢前町、福崎町、姫路市、西脇市、社町、小野市、三木市、加古川市、氷上町、山南町(福岡ほか：兵庫県産維管束植物3)です。兵庫県版レッドデータブック2010のCランク、近畿版レッドデータブック2001のCランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストのVUランクです。

類似種にヤナギヌカボ (*Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) Hara) とサイコクヌカボ (*Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *nikaii* (Makino) Hara) があります。両種ともヌカボタデと同様の環境に生育します。ヤナギヌカボは上部茎が高さ30~60cmと比較的大きくなり、葉はごく短い柄があり、長披針形~長線形で中部付近は両縁が並行し、両端は細まり、長さ3~9cm、葉質はやや厚く、両面に毛があり、裏面に腺点があります。托葉鞘は筒状で長さ5~10mm、縁毛は筒部と同長または短い。花序は直立します。瘦果はレンズ形、まれに3稜形で長さ1.2~1.4mmで3種の中では最も小さい。兵庫県版レッドデータブック2010のBランク、近畿版レッドデータブック2001のCランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストのVUランクです。

サイコクヌカボは葉の基部が丸みを帯び、葉柄はごく短く、両面に毛があり、ヤナギヌカボより丸みがあります。花序は先が垂れ、瘦果は長さ1.5~2mmで3種の中では最も大きい。近畿版レッドデータブック2001のCランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストのVUランクです。



左上：ヌカボタデ
右上：ヤナギヌカボ
左下：サイコクヌカボ